

答え合わせ・解説

問1	答え 2 異国船打払令	1825年、江戸幕府は「異国船打払令」を出し、日本に近づく外国船を無条件で攻撃して追い払うよう命じました。これにより、武力による攘夷の姿勢が明確になりました。
問2	答え 4 リンカーン	リンカーンは奴隷制の拡大に反対する立場から大統領に選ばれました。1861年に南北戦争が始まると、彼は1863年に奴隷解放宣言を出し、戦いの目的を単なる国家統一から人道的な奴隷解放へと広げ、戦局を有利に導きました。
問3	答え 4 1840年	清政府がアヘンの取り締まりを強化したことに対し、イギリスが武力介入したのがアヘン戦争です。1840年に始まったこの戦いは、近代的な武器を持つイギリスの圧倒的勝利に終わりました。戦後の南京条約により、清は多額の賠償金と領土の割譲を強いられました。
問4	答え 1 下田	下田は現在の静岡県に位置する港町です。和親条約により、アメリカ船への燃料・食料の供給を目的として箱館とともに開港地に選ばれました。初代アメリカ総領事ハリスが滞在した玉泉寺があることでも有名です。
問5	答え 1 大老	大老は幕政の最高責任者であり、緊急時の意思決定を行いました。幕末には井伊直弼が就任し、朝廷の許可を得ずに日米修好通商条約を調印するなど、強権的な政治を推進しました。
問6	答え 4 大政奉還	坂本龍馬らの進言を受けた15代将軍徳川慶喜は、政権を天皇に返すことで、徳川家が新しい政権の中でも権力を維持しようと試みました。これが大政奉還です。これにより、長い間続いてきた江戸幕府の支配体制が公式に終わることとなりました。
問7	答え 2 日米修好通商条約	1858年、大老の井伊直弼は朝廷の勅許を得ないまま、アメリカ総領事ハリスと日米修好通商条約を結びました。これにより函館・横浜・長崎などの開港と、治外法権の承認、関税自主権の喪失が決定しました。以後、同様の条約が英・仏・露・蘭とも結ばれ、安政の五カ国条約と呼ばれます。
問8	答え 2 長州藩	長州藩は幕府の命令に反して、関門海峡を通過する外国船を砲撃しました。これに対し、英・米・仏・蘭の四国艦隊が報復として下関を攻撃し、長州藩は敗北を喫しました。
問9	答え 2 吉田松陰	吉田松陰は長州藩の教育者として、松下村塾で高杉晋作や久坂玄瑞ら、後の明治維新の中心人物となる若者たちを指導しました。幕府の条約調印を厳しく批判したため、井伊直弼が行った安政の大獄によって処刑されました。
問10	答え 2 アヘン戦争	清政府がアヘンの取り締まりを強化したことに対し、イギリスが武力で開国を迫ったことで勃発しました。近代的な軍事力を持つイギリスの前に清は完敗し、南京条約を結んで香港の割譲や開港を余儀なくされました。
問11	答え 1 領事裁判権	日米修好通商条約は、日本にとって「領事裁判権」を認めず、「関税自主権」もないという、主権を侵害された極めて不平等な内容でした。領事裁判権とは、日本にいる外国人が罪を犯しても、日本が日本の法律で裁くことができず、その外国人の国の領事が自国の法律で裁く権利のことです。
問12	答え 3 ペリー	アメリカの東インド艦隊司令長官ペリーは、4隻の軍艦（黒船）を率いて浦賀に現れました。圧倒的な軍事力を背景に、開国と通商を求める大統領の親書を幕府に提出しました。幕府は強硬な態度をとるペリーに対し、防備を固めることもできず、翌年の再来航を約束して一旦回答を猶予せざるを得ませんでした。
問13	答え 2 西郷隆盛	西郷隆盛は、長州藩の木戸孝允らと密談を重ね、軍事同盟である薩長同盟を成立させました。これにより、倒幕の力は飛躍的に高まりました。彼は武力倒幕の中心人物として、その後も倒幕を強く推進しました。
問14	答え 4 鎖国	長年にわたり、外国との交流は長崎でのオランダや中国との限られた貿易のみに制限されていました。しかし、1854年の日米和親条約により、この体制は事実上終了しました。
問15	答え 4 尊王	尊王思想は、天皇をあげめするという考え方です。これに「外国勢力を排除せよ」という攘夷思想が結びつき、「尊王攘夷」という強力な運動が生まれました。幕府の統治に疑問を持つ志士たちの精神的な支柱となりました。